

伊予銀行地域文化活動助成制度
第64回 助成団体紹介資料

2023年 11月

目 次

〈中予地区〉

1. 古照太鼓
2. 古三津子ども虎舞教室
3. 松山能面の会
4. えひめオカリナ協会

〈東予地区〉

5. 特定非営利活動法人 創作クラブ Grian
6. えんとつ山倶楽部
7. 三芳祝太鼓保存会
8. 大正琴 琴修会 小松グループ

〈南予地区〉

9. 大洲藩鉄砲隊
10. オープンスペースきゃっち

松山駅前支店 推薦	こでらだいこ 古照太鼓	設 立	2002(H14).9
	代表 いしまる あい 氏 石丸 愛 氏	会員数	19名

古照太鼓様は、2002年に設立された松山市新玉地区の子供から大人まで幅広い年代の会員が参加している水軍太鼓チームです。

1979年に松山市の新たな郷土芸能として創作された「伊豫之國松山水軍太鼓」の伝統を継承し、地元の盆踊りや地方祭など様々なイベントに出演して、地域でも親しまれています。今年6月には、松山市総合コミュニティセンターで開催された「車いすバスケフェスタ」にも参加し、県内外から参加の皆さんに大変喜ばれました。

演目は、「出陣」「勝鬨」「祈り」「平和」の水軍太鼓基本の4部作で、全てをマスターした子供は、さらに難しい演目にも挑戦するなど日々練習を積んでいます。

また、代表の石丸様は地元小学校の水軍太鼓クラブの指導も担当しており、水軍太鼓の普及と継承に努めています。



三津浜支店推薦	ふるみっこ とらまいきょうしつつ 古三津子ども虎舞教室	設立	1991(H3).6
	代表 たなか しずえ 氏 田中 静江 氏	会員数	20名

古三津子ども虎舞教室様は、古三津地区で古くから伝わる虎舞を地域の子供達へ伝えるため1991年に設立されました。慶長3年、松山城初代城主 加藤嘉明公かとうよしあきが朝鮮で虎狩りを行い、その頭と皮を豊臣秀吉に献上して喜ばれたことから、同行した古三津出身の兵士が故郷にその様子を伝えようと、張り子の虎を作り舞ったのが虎舞の起源と言われ、かつては愛媛県内各地で踊られていましたが、現在は当地に残るのみとなりました。

毎年10月の地方祭で舞を披露するほか、地区の文化祭や成人式、県民総合文化祭「子ども伝統文化フェスタ」や、過去には松山城400年祭や天皇陛下即位奉祝県民祭りなど数多くの行事へ参加しています。

2021年に設立30周年を迎えたのを機に、虎舞の由来や会の歴史、活動記録などを掲載した「30年誌」を近く発行する予定で、学校や図書館等への配布を計画しています。



福音寺支店推薦	まつやまのうめん かい 松山能面の会	設 立	2006 (H18). 2
	顧問 しょうこう じろう 氏 (ご出席: 事務長 ささき こうさぶろう 氏)	会員数	15 名

松山能面の会様は、西条市丹原町在住の能面師 ^{わたなべむとう} 渡部夢冬氏に師事していた数名が、渡部氏が逝去された後も能面・狂言面の制作・研究を続けたいと、2006年に設立されました。

能面を制作することを「面を打つ」と言います。この会の能面づくりは、室町時代から江戸時代初期の名人の作を見本として模倣することを基本としており、原材料のヒノキの彫刻から彩色、彫金など多くの分野にまたがり一人で制作する総合芸術と言われています。現在は週に一度、新田高等学校 新楽荘に集まり、1枚の面を3~4カ月かけて制作しています。

会員の作品の展示会も定期的で開催しており、今年も9月に愛媛県立美術館にて「第16回新作能面展」を開催しました。今後も展示会を通じて、能面の魅力を広くアピールしていきます。



久米支店推薦	<small>きょうかい</small> えひめオカリナ協会	設 立	2013 (H25). 7
	<small>すぎもと えいじ</small> 理事長 杉本 詠二 氏 (ご出席: <small>あさの しょうこ</small> 副理事長 浅野 翔子氏)	会員数	194 名

えひめオカリナ協会様は、愛媛県内各地で個別に活動していたオカリナ愛好家が集まり 2013 年に設立されました。

オカリナは 1860 年代にイタリアで生まれた楽器で、陶器ならではの柔らかな音色と簡単に持ち運びできる手軽さが人気となり、日本でも熟年層を中心に年々愛好家が増加しています。

県内でも 30 ほどのグループが活動しており、各地のイベントへの参加や、病院・高齢者福祉施設・学校への慰問演奏などを行っています。また毎年、会員の演奏披露の場として「そよ風コンサート」や、プロを招いての「ジョイフルコンサート」、カフェやレストランで「オカリナ喫茶」などを開催しています。今年、10 周年を迎えるにあたり、今後、10 周年記念コンサートを企画・開催し、オカリナの魅力を広く発信する予定です。



伯方支店推薦	とくていひ えいりかつどうほうじん そうさく ぐりあん 特定非営利活動法人 創作クラブGrian	設 立	2013 (H25) . 10
	代表理事 たくぼ りょうこ 田窪 良子 氏	会員数	13 名

創作クラブGrian様は、伯方島で2012年に在宅障がい者対象の余暇活動クラブとしてスタートし、2013年の「瀬戸内しまのわ2014」を機に創作クラブGrianとして設立、本格的に地域活性化活動を開始しました。さらに2015年に障がい児の家族および支援者の会を設立し、2021年にNPO法人化しました。

旧北浦保育所の建物を改装した集会所「鎮守の杜」を活動拠点に、人と人が地域・世代・国籍・ジェンダー・障がいなど多様な個性を生かして協働する「誰もが住みやすいまちづくり」を目的として、住民主体のより豊かな地域づくりの実現を目指して活動しています。

主な活動内容は、在宅障がい児の日中活動支援などの障害福祉支援事業。コミュニティカフェやワークショップの運営などの地域活性化事業。子どもや外国籍住民の居場所づくりなどの地域生活支援事業など多岐にわたっています。

今後は、多言語布絵本づくりの事業も企画中で、多国籍子育て家族と地域の交流に繋がるツールとして活用していく予定です。



角野支店推薦	やまくらぶ えんとつ山倶楽部	設 立	2008 (H20). 4
	代表 なおの 直野 すがお 菅男 氏	会員数	30 名

新居浜市の生子山^{しょうじやま}は、頂上に旧山根精錬所の煉瓦製の煙突があり、通称えんとつ山と呼ばれています。そのえんとつ山の登山道や周辺が整備されず荒れていたことから、地元有志が中心となり、市民に愛される公園にしようと、2008年にえんとつ山倶楽部様を設立されました。

以降、間伐や植林、ベンチや案内看板の設置などの環境整備のほか、高校生を対象とした環境フィールドワーク授業や巡回パネル展、記念講演会など多彩なイベントを実施し、えんとつ山が子供から高齢者まで誰もが憩える里山公園となるよう日々活動を続けています。それらの活動が評価され、三浦保環境賞や四国山の日賞、2022年にはみどりの日「環境大臣賞」を受賞しました。今後は、有識者や学生を招いたシンポジウムを開催する予定もあり、新居浜のランドマーク「えんとつ山」の保全整備と活動の継承に日々取り組んでいます。



壬生川支店推薦	みよしいわいだいこほぞんかい 三芳 祝 太鼓保存会	設 立	1985(S60).6
	会長 <small>たけだ いさお</small> 武田 功 氏 (ご出席：指導者 <small>あんどう きよ</small> 安藤 記代 氏)	会員数	11名

三芳祝太鼓保存会様は、三芳小学校の児童を中心に、校外活動グループの一環としての「三芳わらべ歌グループ」として1985年に設立されました。その後、小学校校舎の落成を機に祝太鼓が誕生し、1995年から保存会として運営されています。

演目は、オリジナルの「いざたまえ」をメイン曲に、低学年向けの「はらっぱたいこ」。高学年向けの「桜 春つぼみ」。踊りも加わる「ISHIZUCHI ソーラン節」や全員で演奏する「子供ばやし」などレパートリーも豊富です。子供達の見事なバチさばきと元気なかけ声、はつらつとした演奏は大変人気で、地元の運動会や秋祭り、文化祭などへの出演や高齢者福祉施設への慰問も行っており、この活動が評価され、1995年に西条市文化協会から「芸術文化奨励賞」が贈られました。今年は、10月開催の「ねんりんピック愛顔のえひめ2023」にも参加し、西条会場での演奏は参加選手の大きな励みとなりました。



小松支店推薦	たいしょうごと きんしゅうかい こまつ 大正琴 琴修会 小松グループ	設 立	2007 (H19). 4
	ふじい あきこ 会長 藤井 明子 氏	会員数	7 名

大正琴は大正元年に発明された大衆楽器で、現在全国に5流派あり、琴修会もその一つです。西条市を中心に活動されていた琴修会の複数のグループが統合や指導者の交代を経て、2007年に大正琴琴修会小松グループ様として再組成されました。

演奏する曲は、「おまつりマンボ」や「津軽じょんがら」をはじめ、ご当地の「小松音頭」など、童謡・ポップスから演歌まで幅広く、100曲近いレパートリーがあり、毎年参加している西条市芸能祭や小松文化祭では大いに盛り上がるほか、高齢者福祉施設や病院への慰問でも、馴染みのある懐かしい曲が大変喜ばれています。また、小松文化祭での「地域子供文化体験教室」では、子供や若い層が気軽に大正琴に触れる機会を作り、楽器と会のアピールにも努め、会員の増強を進めています。



大洲支店推薦	おおずはんてっぽうたい 大洲藩鉄砲隊	設 立	2014(H26). 8
	ありとも やすのり 隊長 有友 泰範 氏	会員数	17名

大洲藩鉄砲隊様は、2014年8月、大洲城再建10周年記念行事で火縄銃演武を行うために結成されました。その後も参加メンバー有志が中心となって活動を継続し、火縄銃演武を通じて、大洲藩ゆかりの古式砲術の継承と歴史文化の保存を目的に活動をされています。

かつて大洲藩にはお抱え鉄砲鍛冶職人の井上関右衛門いのうえせきえもんと鉄砲隊が存在したとの記録が残っており、当団体も井上関右衛門作の銃を主に使用しています。

2019年から参加している大洲城「キャッスルステイ（城泊体験）」の入城の際のイベントでの火縄銃演武や、毎月行っている天守閣での公開練習、各地のイベント参加などを通じて、大洲の歴史や文化、大洲藩鉄砲隊の由来や井上関右衛門の存在を多くの人に知ってもらい城下町大洲の魅力を広くPRしています。



吉田支店推薦	オープンスペースきゃっち	設立	2004(H16).2
	会長 <small>やまもと かずみ</small> 山本 和美 氏	会員数	27名

オープンスペースきゃっち様は、2004年吉田町に設立されました。当初の役割は重い障がいを抱えた子供たちが利用できる作業所としてでしたが、2007年に正式な作業所が開所したことから、余暇文化活動に特化した場に役割を変え、障がい者と保護者が共に楽しみながら生きていける、様々な人とつながりあえる場となりました。

音楽療法、地域清掃等の活動のほか、カメラの活動もしていて、東日本大震災で日本中が重苦しい空気のなか、「きゃっち」から元気と幸せを発信しようとフォトプロジェクトを開始。

2018年には、西日本豪雨で甚大な被害を受けた町の災害の爪跡が残る様子から少しずつ復興に向かう人々の姿の記録を残すなど、地域に密着した活動を続けています。

今年9月から、障がい者の生活や仕事等、日常風景を切り取った作品を通じて彼らの「命の輝き」を届けたいと企画した、第2回「いのちの写真展」を県内各地で開催中です。

